



こころを育む総合フォーラム
2019年度

活動報告書

公益財団法人 パナソニック教育財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル6階
TEL.03-5521-6100 FAX.03-5521-6200
URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

「ココロを育む総合フォーラム」は、昨今の様々な社会事象から浮かび上がる日本人のこころの荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

設立以来、日本人のこころのありようについて討議を重ね、2007年に未来を担う子どもたちのためにできることを提言にまとめ、発表しました。提言では、家庭・学校・地域・企業の4つの分野に、それぞれの立場で子どもたちのこころを育むことを「問い」のメッセージとして、呼びかけました。

2008年、この提言内容を全国にムーブメントとして広げていくために、子どもたちの“こころを育む活動”を応援する、全国運動を始めました。毎年、全国各地で取り組まれているこころを育む優れた活動を募集・表彰し、広く紹介しています。

12回目となる2019年度は、フォーラムメンバーも新しくなり、自薦に加え推薦も可能とすることによって、多くの応募がありました。10月から11月にかけて選考を行い、12月に全国大賞および優秀賞を決定し、翌年2月に表彰式を開催することができました。

本書が、“こころを育む”環境づくりのための取り組みのヒントになり、活動の輪がさらに広まるきっかけとなれば幸いです。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Contents

[目次]

2019年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰式 4

受賞団体 活動紹介

全国大賞	6
社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会【大阪府】	
優 秀 賞	8
網地島ふるさと楽好【宮城県】	
優 秀 賞	10
特定非営利活動法人 Art for Children' s SHINE【千葉県】	
優 秀 賞	12
多摩市立東落合小学校第6学年【東京都】	
優 秀 賞	14
神戸市職員有志【兵庫県】	
優 秀 賞(ペア受賞)	16
ぶろじえくと えん【鳥取県】	
特定非営利活動法人 チャイルドケアセンター【福岡県】	

歴代全国大賞 受賞団体 18

フォーラムの活動の経緯 19

提言書

発足から計18回の討議を経て、2007年に提言書をまとめ公表しました。家庭・学校・地域・企業という4つの分野での育みを見直すために、それぞれの立場でできることを「7つの問い」の形で呼びかけています。「7つの問い」とは、家庭に向けては「親(保護者)の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか」、学校に向けては「教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか」、地域に向けては「地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育んでいるだろうか」など、より具体的な提案をさせていただきました。

提言書の詳細は、「ココロを育む総合フォーラム」ホームページでご覧いただけます。
<http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php>

ココロを育む総合フォーラム メンバー

座長 鷺田 清一(大阪大学 名誉教授)

市川 伸一(東京大学 名誉教授)
今村 久美(NPO 法人カタリバ 代表理事)
入江 杏(絵本作家)
小国 綾子(毎日新聞 ジャーナリスト)
工藤 啓(NPO 法人育て上げネット 理事長)

玄田 有史(東京大学 教授)
鈴木 みゆき(国立青少年教育振興機構 理事長)
福田 里香(パナソニック(株) CSR・社会文化部 部長)
増田 明美(スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学 教授)
山極 壽一(京都大学 総長)

2019
年度

子どもたちの“こころを育む活動”表彰式

「2019年度子どもたちの“こころを育む活動”表彰式」は2020年2月5日、東海大学校友会館（東京都千代田区霞が関）にて開催いたしました。

今年度は、例年より多くのご応募をいただいた中から、審査で高い評価を得られた7団体を表彰。受賞団体をはじめフォーラムメンバーや募集協力団体など、全国から約70名の皆様にご来場いただき、盛会のうちに終了しました。

ここでは、表彰式から交流会まで、和やかな中にも活気あふれる会場の様子をご紹介します。



ごあいさつ・講評

来賓代表の寺門氏（文部科学省総合教育政策局 社会教育振興総括官）からは、「こころの教育や地域づくりに大きく寄与し、全国の模範となっている活動のさらなる充実と末永い継続を」と受賞を祝う言葉とともに活動への期待が述べられました。

審査講評では、フォーラムメンバーで選考委員長の玄田氏（東京大学教授）が、活動に共通する魅力的なポイントを〈ストーリー性がある〉〈多くの人を巻き込むパワーがある〉〈オリジナルなアイデアが見受けられる〉〈ネーミングに工夫がある〉と振り返り「甲乙つけがたい素晴らしい活動が多く選考に苦労した。これだけの“子どもたちのこころを育む活動”が全国で展開されていることに感動した」と感想を交えて語られました。

当財団の小野理事長からは、募集を作文形式に変えて昨年を大きく上回る応募数となったことが伝えられ、お祝いと感謝の言葉が贈られました。



主催者挨拶（小野理事長）



来賓ご挨拶（文部科学省 寺門 社会教育振興総括官）



審査講評（東京大学 玄田教授）

表彰・受賞活動の発表

12回目を迎えた表彰では、こころを育む総合フォーラムの座長である鷺田清一氏（大阪大学名誉教授）より、賞状と記念の楯、目録が手渡されました。

表彰後には、各受賞団体が活動内容を発表。活動がスタートした背景の説明から、活動を継続させる中での奇跡的な出会いやほっこりする出来事など、さまざまなエピソードが紹介されました。

スクリーンには、日々の活動の中にあふれる子どもたちの笑顔が映し出され、見ている皆様にも笑顔の輪が広がっていました。子どもたちを支える皆様のご苦労や喜び、熱い思いが十分に伝わる発表となりました。



鷺田 清一座長の講話

最近、自分の周りに透明な壁をつくって周りを無いことにしている若い人が多い気がします。壁をつくるとは例えば、電車内でスマホのメールやゲームをする行為を指します。化粧もその一つかもしれません。壁をつくって周りを無いことにする行為は、逆に自分が周りから無いことにされている可能性があります。壁によって知らないうちに世の中から無いことにされるのは、子どもたちにとってきついこと。

自分はここにいる意味があるという自信＝プライドは、人に気にかけてもらう贈り物として自分の中で静かに育つものです。他人に関心を持たれることで自分を大事にする気持ちになれるのです。

私たちはそのような意味で、プライドを贈りあえる社会にする努力が必要だと思います。子どもたちのこころを育む活動には、自分も人も「大事に思う」「関心を持つ」ことにつながる”根っこ”があると感じています。



鷺田清一座長（大阪大学名誉教授）による講話

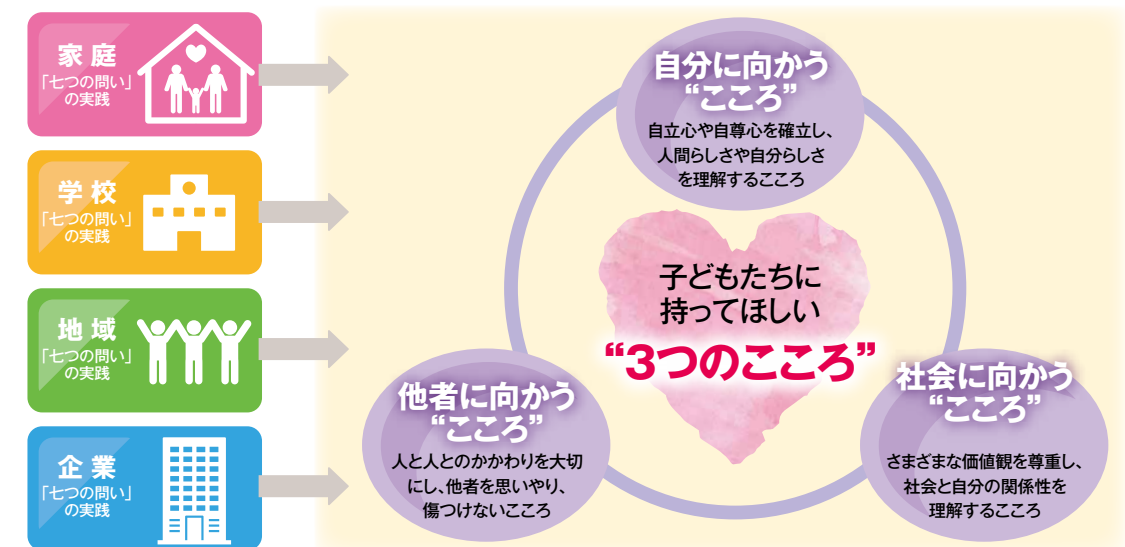
交流会

会場には、各受賞団体の活動の様子が伝わる写真や資料、パネルなどを展示。展示物の前では、興味深く見入る姿や積極的に質問をする姿が見られました。終始、参加者の会話でにぎわう活気に満ちた交流会となりました。



フォーラムの目指す姿

家庭・学校・地域・企業などがそれぞれの立場で取り組んでいる「子どもたちの“こころを育む活動”」を表彰することによって、子供たちに持ってほしい“3つのこころ”をバランスよく育むことを目指しています。



受賞団体 活動紹介



全国大賞

社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会【大阪府】

**あなたも私も笑顔になる
～子ども福祉委員～**

選考理由

子どもが主体的に計画・行動し、地域の高齢者一人ひとりの声に耳を傾けてお手伝いしています。「子ども福祉委員」の発想はユニークで、無理なく助けあう気持ちがほほえましく、他地域への波及も期待できます。

活動の概要と目的

感謝と笑顔が循環する支え合いの仕組みで地域を豊かに

「子ども福祉委員」は、阪南市の小・中学生が自主的に地域の課題解決に取り組むボランティア組織です。住民懇談会で出された「子どもたちを地域の担い手に」と願う校区福祉委員*の声を受け、社会福祉協議会が2017年に組織を創設。子どもの自主性を尊重する形で支援しています。

子どもたちは、地域に必要な活動を話し合い、手作りのチラシで高齢者の困りごとを募るなど、地域における課題の発見・解決に向けて積極的に取り組んでいます。月に1～2回実施する活動は、高齢者宅の電球交換や庭の手入れ、買い物の付き添いなどのほか、地域の掃除イベントの企画や保育所・福祉施設の手伝いなど多岐にわたります。

子どもたちは、活動に対する感謝の言葉や笑顔に、喜びと自信を得て日々成長しています。周囲の大人も刺激を受けて活動に参加するなど、地域全体に波及効果が生まれています。

※小学校区において、住民の立場で子どもや高齢者等を支える福祉活動を行うボランティア。

子どもたちの変化・成長

困りごと解決を通して地域の課題に気づき、貢献できた達成感に自信をつけています。「人見知りを克服できた」「コミュニケーション力が発達した」と自身の成長を自覚し、地域や学校の活動にも積極性が出ています。

参加者の声

暑かったりしんどかったりしても最後までやれたし、いろんな人を笑顔にできて良かったです。(小学校高学年)

人の役に立ちたくて、入りました。人前に立つのが苦手だったけど、積極的になり、知り合いも増えてよかったです。(中学生)

訪問では、ありがとうと言ってもらい、お礼を言われるってとっても気分のいいことだなと思いました。(中学生)

網戸がきれいになり、親御さんに感謝状を渡したくらい。話をし、ピアノを聞かせてもらい楽しい時間でした。(依頼した高齢者ご夫婦)

姉の影響で私も入りたいと思い、友達を誘って参加しました。以前よりも家でお手伝いをするようになりました。(中学生)

お年寄りと交流して思ったのは、めっちゃ楽しい!!ってことでした。(中学生)



今後の課題と未来の方向性

依頼する高齢者の遠慮や気遣いをうまく取り除いて要望を聞き出したり、子どもたちと同行者の日程調整を、件数や人数が増えても円滑に処理できるようにすることが課題です。また、中学校卒業後も継続してボランティアや地域活動に関わり続けられる受け皿づくりも進めていきたいと考えています。

活動の特長

✓「子どもたちに地域の担い手になってほしい」

住民懇談会での校区福祉委員の言葉をきっかけに、「子ども福祉委員」の組織が誕生。阪南市では、他人の困りごとにも『我が事』として受けとめ、分野や“縦割り”を超えてさまざまな人たちが『丸ごと』つながり活躍できる地域づくりを進めており、担い手づくりの目玉事業として2017年に活動を開始。1中学校12人で始まった活動は、2019年には3中学校1小学校におよび、延べ78人が参加する活動に成長しました。

✓地域の課題を自ら探し、対応策を話し合い、解決する

まち歩きやアンケートで地域の課題を実感し、「力になりたい」と企画立案して自ら動く子どもたち。その自主性を大切に「絶対に大人の考えや行動を押し付けない」ように注意しながら、こころの成長をサポートしています。子どもたちの手で宣言文を作成した「子どもボランティアサミット」は、2019年に2回目を迎えました。年に一度の各校による発表や課題を話し合う交流会が、子どもたちのやる気の持続につながっています。

✓地域の未来を支える“感謝と笑顔”循環の仕組み

子どもたちと高齢者が「困りごとの解決」を通して感謝と笑顔でこころを通わせ、まち歩きでまちを知っていることが、災害時に生かされました。2018年、台風被害にあった地域の人々を支える活動に、普段の見守りやつながりが生かされたのです。「子どもの頃のボランティア経験」が、こころに地域貢献のタネをまき、“感謝と笑顔”を栄養として地域の未来に花を咲かせる、素敵な支え合いの仕組みとなっています。



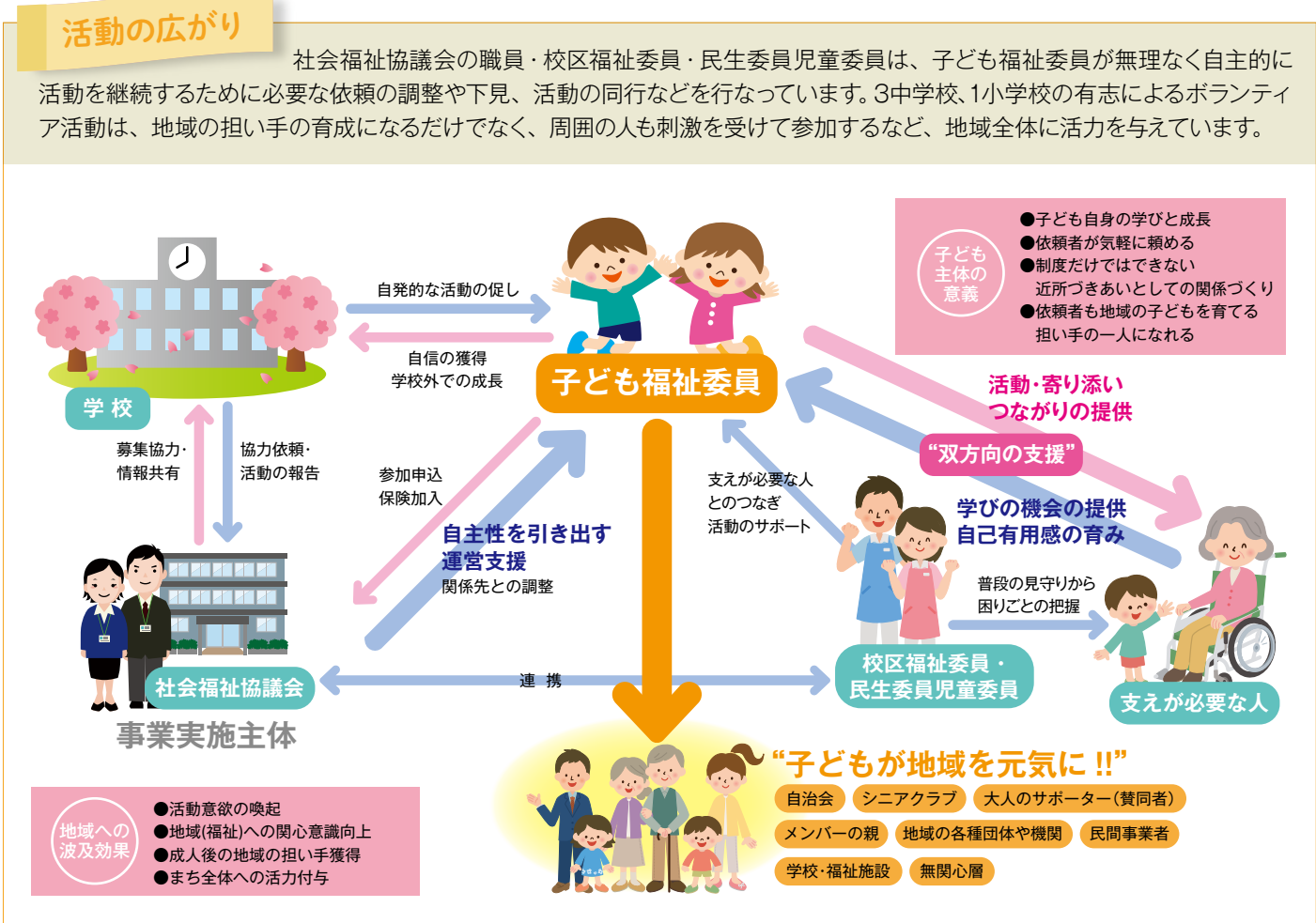
定期的な地域清掃イベント“CMC(クリーンマイシティ)”を立案し、実施しています。水色のユニフォーム姿が印象的!



ミーティングでは、どんなことをやりたいか話し合います。困りごと調査のアンケートやチラシも自分たちで作っています。



台風で被災した1人暮らしの高齢者宅を訪問。「困りごと手伝います」と声をかけ、チラシを手渡しました。



連絡先

●所在地: 〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町1-18-15 ●TEL: 072-472-3333

●E-mail: h-shakyo@sb3.so-net.ne.jp ●HP: <https://www.hannanishi-shakyo.jp/>

●代表者: 築野 由照(会長) ●担当者: 猪俣 健一(事務局次長)

優秀賞

網地島ふるさと楽好【宮城県】

虐待孤児や震災孤児のこころのふるさとづくり

選考理由

10年以上にわたって震災孤児や児童養護施設の子どもたちを島に招き、子どもの頃の楽しい思い出づくりをすることで、子どもたちのこころを解きほぐし、自分や周りの人を大切にすることを育んでいます。

活動の概要と目的

島のお年寄りの温かな愛に包まれるこころのふるさと 限界集落の社会貢献 子どもがいない悲しき浜の楽好

楽好の始まりは、桶谷区長の言葉「浜に子どもがいない寂しさをこんなにも感じているのに島の外では虐待などで命を落とす子がいる。ここは限界集落だが、虐待された子に大切にされ愛される思い出を持たせてあげたい」。2006年から子どもたちの幸せだけを願い、費用のすべてを工面し、仙台からバスと船で3時間かかる島に2泊3日で招待。初めは警戒している子も、島のお年寄りの温かな愛に包まれることで、自然と笑顔になります。家族のように過ごす特別な時間。閉校式では普段は素直になれない子も自ら手を挙げて、こころを込めて、「ありがと」と感謝の気持ちを伝えるので、島のお年寄りは涙が止まらなくなります。島のお年寄りへ贈る文集に描かれる人物はみんな笑顔だ。島のお年寄りからこころを学んだ子どもたちは思いがけない幸せを島にもたらしました。東日本大震災で絶望的なガレキに島が埋もれた際には百通を超える手紙で勇気を、桶谷さんが急逝した際には遠く仙台から通夜に駆けつけてお礼の言葉で島のお年寄りを力づけました。優しい思いやりのある子どもたちがたくさん育っています。

網地島は虐待孤児や震災孤児のこころのふるさとになりました。

子どもたちの変化・成長

虐待などに苦しんできた子どもたちは、小学生から高校生になるまで何度も島を訪れ、島のお年寄りの温かいこころにたくさん包まれることで、自分を大切に思えるようになり、思いやりのこころが育まれます。素直な涙が子どもたちのこころを育んでいます。



網地白浜でのシーカヤックはまるで宙を飛んでいるよう。自分が船長なので、上手に漕げると自信がつく。ソト猫やアオスジアゲハやオニヤンマが浜に遊びに来るよ。



網地島独自のあなご抜き。「おじいさん、エサを取られちゃった」「魚がいっぱい釣れるようにおいしそうなエサをたっぷり付けてあげるよ。今度は大丈夫だからね」

※「虐待孤児」は厳しく辛い言葉ですが、網地島ふるさと楽好では敢えて使用しています。楽好にはおなかに大きな火傷の痕や虫歯のたくさんの治療痕がある虐待された子どもたちが参加します。多くの方にその辛さや悲しさを理解してもらい、応援をいただきたいと考えて敢えて使用しています。

参加者の声

島の魚のお刺身はおいしい。みんなで食べたら、大きなヒラメが骨だけになった。島のおばあさんの料理はとてもおいしい。(子ども)

ぼくたちが杵と臼でついたお餅は、島のおじいさんやおばあさんたちにも配ったよ。おいしく食べてくれたかな。(子ども)

膝が痛い、腰が痛い。でも、子どもたちの明るい笑顔を見るとがんばれる。子どもの笑顔はいい。こっちまで楽しくなる。(島のおばあさん)

今度島に来るときにどれくらい背が伸びているか楽しみだ。大人になったら、子どもを連れて島に遊びに来てほしい。(島のおじいさん)

流木アート楽しい

火起こし楽しい

あわびの肝がおいしい

ソト猫がかわいい

シーカヤックで沈したらおじいさんが助けてくれた

杉の葉っぱはよく燃える

自分が釣った魚おいしい

Tシャツプリントが上手にできた

島にはこわいオバケがいる

霧が出ると何も見えなくなる

クジラのお刺身おいしい

また遊ぼニャ〜(エビ蔵)

島の夜は真っ暗だ

アオスジアゲハきれい

メカブおいしい

煙が目にしみる

今後の課題と未来の方向性

高齢者だけの限界集落なので、認知症になったり、亡くなったりする方がとても多いです。全国の大学生ボランティアに応援をお願いしています。大学生ボランティアは、子どもたちから「おかあさんはいの?」と聞かれ(自分の境遇を確認する行動)、寂しい本当のこころを知ることができました。子どもたちの障害や個性や境遇と向き合いながら学ぶ成長の場をこれからも大学生ボランティアに提供していきます。

活動の特長

✓ 笑顔の魔法☆子どもたちの笑顔輝く☆島のお年寄りも笑顔になる

遊びは島に無限にあります。オニヤンマとにらめっこ、ソト猫とじゃれあい、カラスとの早起き虫取り競争、あなご抜きで岩の下に潜む魚との真剣勝負など。食事は島のおじいさんが海から捕ってきたばかりのうにやひらめやあわびを一緒に調理し、本当の家族のように楽しく会話しながら食べます。「海でひらめを踏んづけちゃった!」「おかずのうにが逃げていく!」と子どもたちの喜々とした声で島はとても賑やかになります。

✓ 東日本大震災でガレキに埋もれた島☆子どもたちから百通の手紙

絶望の中、子どもたちから百通を超える手紙が届く。桶谷さんたちは、「来年の夏、子どもたちを迎えたい」と奮起。海から打ち上げられる大量のガレキを諦めずに何度も片付け、1年かけてすべて撤去。開校前日には夕方まで小さな破片を丹念に拾い続け、裸足で入れる海を取り戻しました。観光客は1人もいない子どもたちの海。島のお年寄りからこころを学んだ子どもたちの手紙が、ガレキに苦しむ島の希望となりました。

✓ 素直な涙が子どもたちのこころを育む☆子どもたちが島を幸せに

虐待等で苦しんできた子どもたちが、小さい頃から何度も島に訪れ、島のお年寄りの温かな愛に包まれることで、思いやりのこころが育まれます。2015年に桶谷さんが急逝。これまでのお礼を言いたい子どもたちは、遠く仙台から通夜に駆けつけてくれました。桶谷さんのために自分たちができることをみんなで話し合い、「今度、島に行ったら、思いっきり楽しむ」と誓いました。子どもたちからの温かいいたわりの言葉に島のお年寄りは励まされました。優しい思いやりのある子どもたちがたくさん育っています。



島のおばあさんと顔を寄せてつぶ見をむく子どもたち。何気ない会話がとても楽しい。垣間見る寂しさを温かく受け入れる。



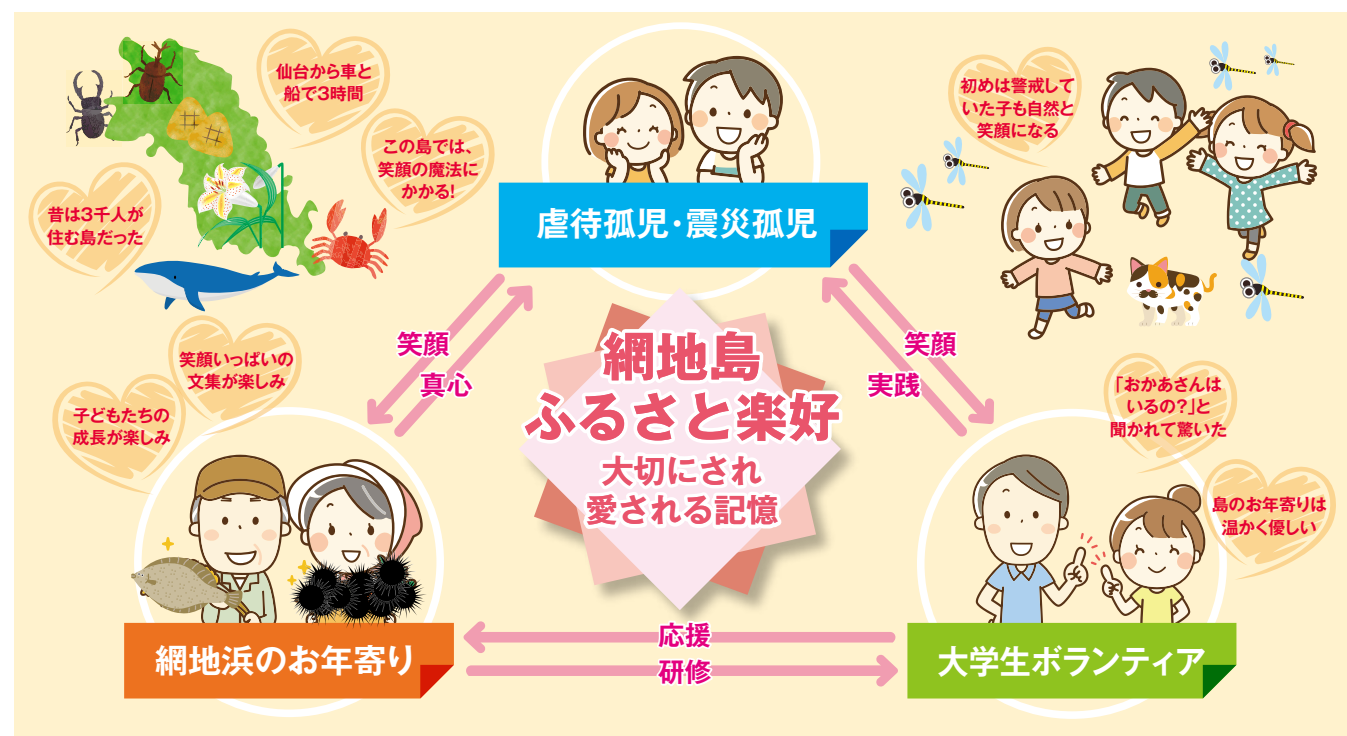
大津波が漁船を沈め、水道・電気を遮断。海を埋め尽くすガレキに誰もが諦めていた。この手紙を見てみんな奮い立った。



帰りの船で泣き続ける子どもたち。虐待や震災で辛い悲しい境遇であったからこそ、島の温かいこころを大切に思います。

活動の広がり

子どもたちの幸せだけを願いながら、14年間で565名を招待。小学生で初めて来た子が気遣いのできる頼もしい高校生に成長する姿を見ることも楽しみになりました。ボランティアの中には、楽好に参加したことで児童養護施設の先生になる人や結婚式に島のお年寄りを招待する人もいます。島の小さな楽好が関わった人を結び、本当の幸いを広げています。



連絡先

●所在地：〒986-2526 宮城県石巻市網地浜網地66 ●TEL：0225-49-2234
●E-mail：odadumokko@yahoo.co.jp ●HP：子どもたちのプライバシーを守るため、情報発信を控えています。
●代表者：奥田 和慶（楽好長） ●担当者：桶谷 泰子（総取締役）



特定非営利活動法人 Art for Children's SHINE (千葉県)

児童養護施設で暮らす 子どもたちへのアートセラピー

選考理由

児童養護施設に定期的に通い、他人とかかわることやバーバル（言語的）なコミュニケーションが得意でない子どもたちとも向き合い、「絵を描く」ことを通して子どもたちの自己表現を手助けしている。

活動の概要と目的

継続的なアートセラピー活動で 子どもたちの感情表現を引き出す

子どもは日々、大人と同じように多くのことを考え、感じています。しかし、言語が未発達なため、言葉だけで自分の感情を表していくことは困難です。また、子どもは周囲の大人のために自分の感情を抑制し、心の奥にしまい込んでしまうこともあります。

同法人では、養育環境の影響で自分の感情をうまく表現できずに育ってきた子どもたちに対して、アートで自分を自由に表現できる特別な時間を届け、子どもたちが自分らしさを発見し、自分を愛し、明るい希望を持って生きていけるよう支援することを目指しています。

臨床美術士の資格を持つメンバーが中心となり、千葉、東京、鎌倉の3つの児童養護施設を毎月1回訪問し、アートセッション（導入→造形活動→鑑賞会）を実施。アートセッションで制作された子どもたちの作品を地域の皆さんに観ていただく「作品展」を毎年開いているほか、年に1回は各施設の子どもたちを自然の中へ連れ出し、アート体験をするデイキャンプを行っています。

子どもたちの変化・成長

最初は声かけに反応しなかった子どもたちが、体全体を耳にして声かけを聞くようになり、自分で色を選ぶこともできなかった子どもたちが、テーマを決めて紙を渡すとすぐに描き出すようになります。何より表情が明るく変化していきます。

参加者の声

※子どもたちの声を集めることが難しいため、これに代えて施設職員からの声を掲載します。

メンバーの方は子どもたちを長い目で見てくれます。子どもたちの成長について互いに共感できるところがよいと思います。

アートセッションでは、大人がほぼマンツーマンで対応してくれます。特に幼児にとっては、そうした経験が重要だと思っております。

お泊りで嫌なことがあっても子どもたちは隠してしまします。セッション中の反応や作品で気づく点があったら教えてほしいと思います。

デイキャンプは経験がなかったこともあり、とても喜んでいました。いつもとは違う場所でバーベキューをするなど、特別感を感じていたようです。

字を書くのも苦手な子が、手紙を書いてくれました。何かを描いて人に見てもらおうという経験がそういう行動につながっているのかなと思います。



高校生など年齢が高く精神状態が不安定な子に対して、マンツーマンで個別のセッションをやっていたけるとよいと思います。

今後の課題と未来の方向性

現在、アートセッションの対象は幼児・小学校低学年の子どもたちが中心ですが、小学校高学年や中高生、施設退所後の子どもたち、さらには里親家庭で暮らす子どもたちにもニーズはあると考えています。長期にわたって、一人ひとりの子どもを安定的にサポートするためには資金面と人材面が課題です。このうち人材面では、活動に参加したい方向向けの研修制度の準備を進めています。

活動の特長

✓ 子どもたちの心の中にあるものを形にして心の外へ表していく活動

アートには、人間の心の奥に潜んでいるもの、社会の裏側に隠れているものなどに形を与え、人々に見えるようにするという使命があります。言語の発達が未成熟な子どもたち、とりわけ困難な状況に置かれた子どもたちにとって、言葉だけで自分の感情を表していくのは難しいことです。そこでアートセラピーでは、身体を動かしたり、絵を描いたりして感情を表現していきます。子どもたちの心の中にあるものを形にして、心の外へ表していく活動です。

✓ 継続することに価値があるアートセラピー活動

最初はメンバーの声かけに反応しなかった子どもたちが、回を重ねるごとに笑顔を見せ、声かけを聞くようになっていきます。子どもたちの成長を見るたび、できる限り長く活動を続けていけるよう、参加するメンバーを増やすこと、活動を支える資金的な基盤を広げていくことが大切だと考えます。同時に、児童養護施設との良好な関係も欠かせないため、施設職員さんとの緊密なコミュニケーションにも十分留意しています。

✓ こころ踊る「おでかけ」。自然の中でアートとキャンプを楽しむ

子どもたちが最も楽しみにしているのが、施設ごとに年1回行うデイキャンプです。以前は夏休みに泊まりで行っていましたが、現在は資金不足から日帰りで実施しています。自然のある空間に飛び出し、のびのびとアートを体験。行き帰りの列車の中で駅弁を食べる、森の中でバーベキューをする、そんな非日常にも心が踊ります。人材面、資金面ともに大変ですが、心待ちにする子どもたちのために継続しています。



ダンボールアート。身体を動かして感情を表現することは、子どもの成長に大切な意味を持ちます。



セッションでは子どもたち一人ひとりに声かけし、表情にも注目しながら制作過程を見守ります。



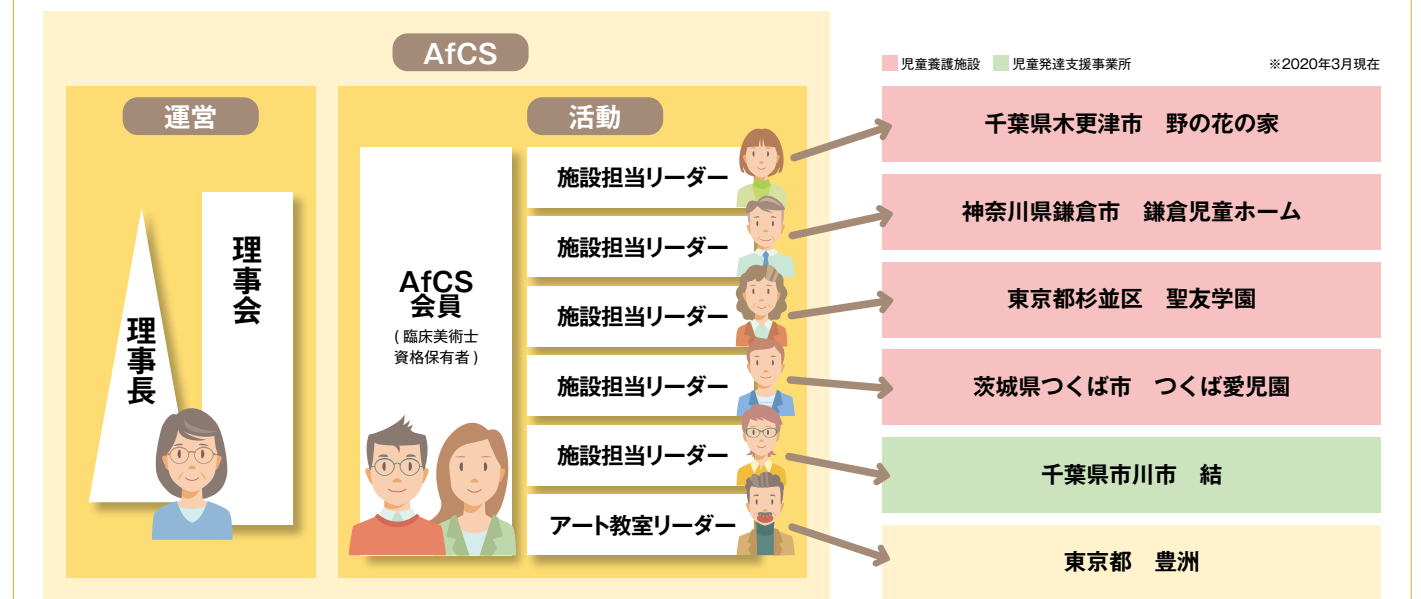
いつもと違う場所で特別な体験をするデイキャンプ。子どもたちが心待ちにするイベントです。

活動の広がり

現在、千葉、神奈川、東京の3ヶ所の児童養護施設で定期的に、つくば市の施設では不定期に、アートセッションを行っています。また、障害を持つ未就学児が昼間の時間を過ごす、児童発達支援所でも活動をしています。

アートセッション以外では、キャンプに子どもたちを招待しているほか、こうした活動を資金面で支えるため、一般向けのアート教室事業を行っています。

人材面で活動を支えるのは、臨床美術士の資格を持つAfCS会員（2020年3月現在27名）です。施設担当リーダーは、各施設との間で毎月のアートセッションの日程調整や年1回のデイキャンプに関する調整など、施設と会員の間の調整役として機能しています。アートセッションやデイキャンプの日程が確定したら、参加できる人を会員の中から募るという形で運営しています。



連絡先

●所在地：〒279-0011 千葉県浦安市美浜1-6-209 ●TEL：090-8569-7394
●E-mail：info@afcshine.com ●HP：http://www.artfcshine.space
●代表者：柴田 紀代（理事長） ●担当者：高橋 恵子（副理事長）

多摩市立東落合小学校第6学年【東京都】

優秀賞

児童による 高齢者宅のゴミ出しボランティア

選考理由

多くの地域が抱える身近な問題である「高齢者宅のゴミ出しの苦勞」を、小学生が手助けするという発想がユニークです。また、地域の高齢者と自然と顔見知りになり、その関わりの中でこころが育まれています。

活動の概要と目的

ゴミ出しを通して高齢者と小学生が見守りあう地域の絆づくり

小学6年生が週2回、登校前に高齢者宅のゴミ出しを手伝う活動です。ゴミを出す日、子どもたちは登校前に2～4人の班ごとに集合し、高齢者宅を訪問します。元気よくあいさつしてゴミを受け取り、集積所へ。雨の日も寒い朝も、いつもより早起きして1年間手伝いを続け、3月には5年生と一緒にゴミ出しを行って活動を引き継いでいます。

ゴミ出しボランティアを始めるきっかけとなったのは、東日本大震災でした。災害時の避難所となる小学校として、地域との交流を深めておきたいと思い、5階建てエレベーターがなく、高齢者がゴミ出しに苦勞している近隣団地のニーズが重なり、二つの課題を解決できる活動として2013年にスタートしました。開始から6年間で、550名以上が参加。東落合小学校の伝統とも言える活動になりました。

子どもたちは活動を通して高齢者の負担を知り、お礼や労いの言葉を励みにがんばります。1年間やり遂げる中で自信や責任感が養われ、思いやりのこころが育まれています。

子どもたちの変化・成長

子どもたちは高齢者の負担を実感して思いやりのこころを育み、助けになることに喜びを感じています。また、仲間と1年間やり遂げたことで責任感が養われ、自信をつけています。校内および地域の清掃活動に自発的に参加する子どもも増えています。



訪問して元気よくあいさつし、ゴミを受け取ります。「いつもありがとう」とうれしい声をかけてもらうことが、励みになっています。



訪問先のお年寄りが、階段を降りてゴミを捨てに行くのが大変なことを実感しています。学校へ向かう間の仲間とおしゃべりも楽しい時間です。

参加者の声

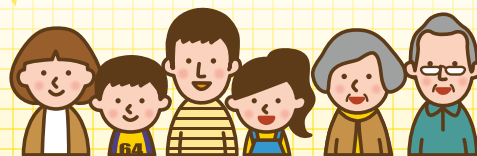
最初は朝ギリギリだったのが遅れずに行けるようになりました。感謝や責任を感じながら1年間やりきりました。
(小学6年生)

「ありがとう」の声に、人の役に立っていると、うれしく感じました。家でもゴミ出しをするようになりました。
(小学6年生)

感謝の言葉に達成感を感じ、やってよかったと思いました。将来、人の役に立てる人になりたいと思いました。
(小学6年生)

卒業後にお手伝いした方を見かけて「元気そうよかった」と話し、優しい気持ちが育っていることを実感しました。
(保護者)

一度、遅れて迷惑をかけたことがありました。ゴミ出しを通して約束はしっかりと守らなければいけないことを学びました。
(小学6年生)



階段を降りてゴミを出すのがきついたので、ゴミや新聞を持って行ってもらって本当にうれしく助かっています。(依頼した高齢者ご夫婦)

今後の課題と未来の方向性

ゴミ出しの依頼者が高齢であるため、引越しや施設への入居などで長期間の継続が難しく、軒数の確保が課題です。今後も理解と協力が得られるよう周知を図りつつ、ゴミ出しボランティアの活動を学校の伝統として大切に守っていくことが目標です。また、昔遊びの授業や給食参加など、高齢者との交流を図る機会を他にも設けているので、引き続き地域の協力先と連携しながら交流を深めていきます。

活動の特長

✓「地域交流の必要性」と「高齢化対策」二つの課題の解決策に

1971年に多摩市で入居が始まった多摩ニュータウンは高齢化に直面しており、エレベーターがなくゴミ出しに苦勞する高齢者が多い落合団地もその一つです。落合団地の近隣に位置する東落合小学校は、災害の際には地域の避難所になります。ゴミ出しボランティアは、東日本大震災から高まる「地域交流の必要性」と「高齢化対策」という二つの課題の解決策となっており、高齢者と子どもには相互の見守りにもなっています。

✓地域住民と子どもたちをつなぐ教育連携コーディネーターが活躍

高齢者および地域住民の方々子どもたちをつなぐ重要な役割を担っているのが、教育連携コーディネーターです。学校の依頼により多摩市から委嘱を受けた教育連携コーディネーターが、団地の自治会や敬老会などから希望者を募り、高齢者宅への説明や日程調整を行いながら子どもたちの活動を支援しています。2013年の開始より7年間で延べ550人以上の子どもたちが活動を受け継ぎ、学校の伝統として根付いています。

✓モチベーション向上の秘訣は、さまざまな形で褒めること

子どもたちは訪問の際に笑顔で迎えられ、「いつもありがとう」「助かります」と声をかけてもらうことに、うれしさとやりがいを感じています。学校では、授業で活動の振り返りを行うとともに、マスコミで紹介されたゴミ出しボランティアの記事や写真を掲示板に張り出して、モチベーションの継続や喚起を図っています。活動を「子どもを褒める機会」と捉え、いろいろな角度から褒める意識をしています。



学校行事が近づくと案内をしています。訪問先の方が運動会に来て応援してくれるなど、交流が深められています。



雨の日も寒い朝も早起きし、送り出すご家族の協力を得てがんばることができています。家でゴミ出しする子も増えました。



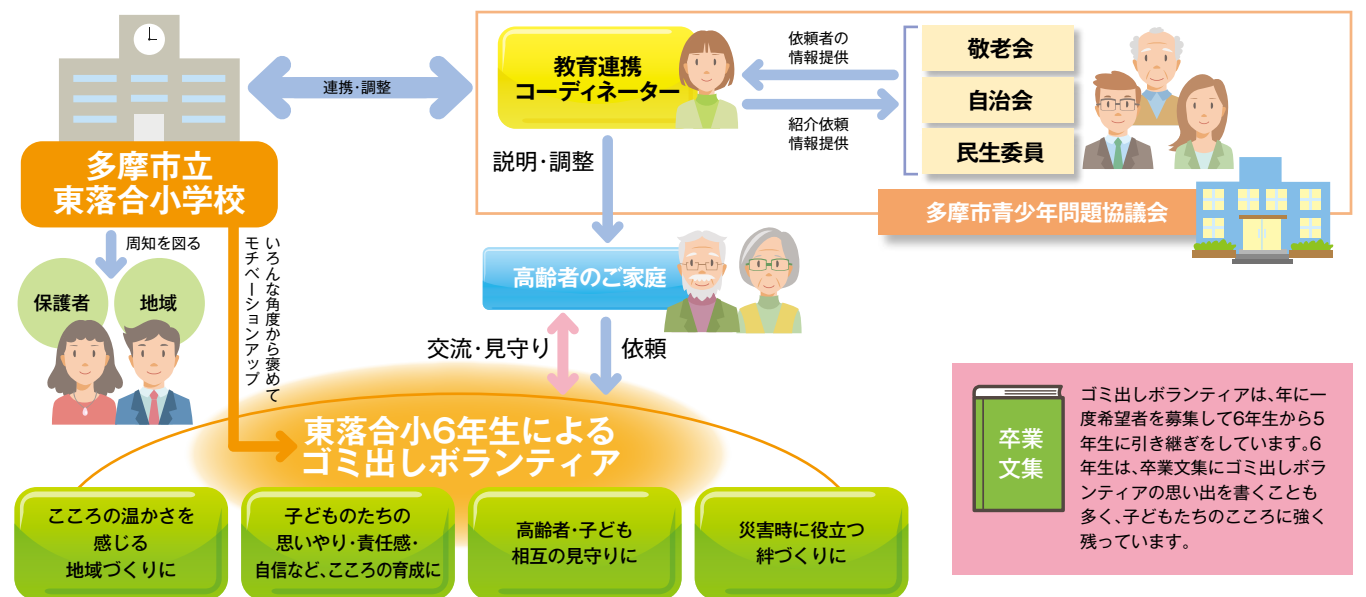
掲示板に張り出された紹介記事や表彰状などを目にするのが喜びや自信になり、責任感とやる気に結びついています。

活動の広がり

活動は、依頼者との調整を行う教育連携コーディネーターを要に、多摩市の青少年問題協議会の協力、自治会や敬老会など地域との連携により支えられています。

学校では、他の地域交流授業や各種報告ツールなどで活動の周知を図り、高齢者の方々子どもたちのご家族など、さまざまな形でサポートする人々との関係づくりを行なっています。

活動を通して子どもたちは、地域の清掃活動や夏祭りにも積極的に参加するようになり、保護者の社会参画意欲も向上。交流を深めたお年寄りや近所の方々が、運動会などの学校行事で子どもたちを応援し、見守り活動に積極的に参加するなど、活動によって世代間の交流が活発になっています。



連絡先

●所在地:〒206-0033 東京都多摩市落合3-24 ●TEL:042-376-6214
●E-mail: daihyo-higashiochiai-sho@city.tama.ed.jp ●HP: http://schit.net/tama/eshigashiochiai/
●代表者: 鈴木 純一郎 (校長) ●担当者: 齊藤 康人 (副校長)

神戸市職員有志【兵庫県】 「神戸みらい学習室」の 学習支援と夢ゼミ

活動の概要と目的

無料の学習支援で開く未来への扉

経済的な事情のほか、さまざまな理由で塾に通えない中学生に、無料で学習支援が受けられる場を提供しています。受験に向かって地域の大人が寄り添い、伴走することで「やりぬく力」や「人に対するやさしい気持ち」を育んでもらうことが目的です。

学習室は、毎週日曜日に神戸市内の2校で実施。大学生や社会人のボランティア講師が、得意分野を生かして宿題から入試対策まで、個々の状況に寄り添う形で丁寧に対応しています。受講生は、学力向上とともに継続できたことに自信をつけており、『夢ゼミ』で聞く留学や就職の体験談に未来の選択肢を広めています。

「行政支援が届かない人たちにも利用できる無料学習支援を」と市の職員有志が目指した学習室は、職務外の地域貢献を推奨する市の「地域貢献応援制度」創設を機に2017年に実現。運営費を寄付で賄う無報酬の活動に、優秀な講師らが集結。スタッフは休日に講師の日程調整や資料作成などを行いながら、円滑な運営を支えています。

子どもたちの変化・成長

受講生は、苦手科目にも楽しさを覚えたり、続けることに自信をつけながら成長しています。外部模試では、ほぼ全員の偏差値アップを確認。学力の向上が見られるとともに、『夢ゼミ』で未来の選択肢を広め、自然な形で社会参加への意欲を高めています。

選考理由

神戸市職員の有志が休日に大学生ボランティアの予定を組み、終了時にはミーティングを行い、中学生1人1人のカルテを作ってフォローできるようにしています。公務員とボランティアが連携した好事例です。



学園都市校での学習の様子です。月1回の『夢ゼミ』で講師の大学生が語る留学や就職、夢などの話が、目標やモチベーション向上につながっています。



さかのぼり学習やマンツーマン指導を実施。個々のカルテを作成し学習室前後の会議で指導方針を協議します。毎週、特性や相性を踏まえたマッチングも。

参加者の声

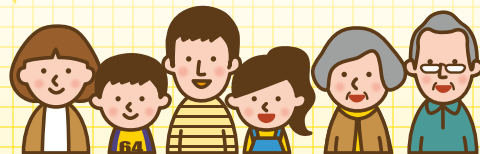
レベルを合わせ、親身になってわかるまで教えてもらえます。苦手な数学が嫌いではなくなり、大学に興味が出てきました。(受講生)

夢にはさまざまな道があり、いつか見えてくる自分の夢が楽しみだなあと、いつも『夢ゼミ』を見ている。(受講生)

低所得者にとって塾は高いハードル。親より選択肢を少なくしてほしくないと思う私にとって、ここは希望の光でした。(保護者)

顔を向けてくれるまでが第一歩なこと。長い目線で見て、勉強の仕方やがんばり方を意識して教えています。(講師/大学生)

ボランティアなのに真剣に教えてくれて、感謝しています。学習会がなかったら進路も適当に考えていたと思います。(受講生)



母子家庭で勉強を見てやったことがほとんどありません。とても丁寧に教えてもらえる子どもが喜んで話してくれました。(保護者)

今後の課題と未来の方向性

講師やスタッフなどの人材の確保と財源の確保が課題です。また、次第に増えてきた不登校や発達障害の子どもたちへの対応について、東大先端研※など専門家と連携を図りながら支援プログラムの構築などをはじめ、より良い支援策を検討しています。今後は教育の質の向上を目指しつつ、講演会や卒業式などのイベントを地域と連動して開催し、より多くの方に活動を知っていただけるよう情報を発信していきます。

活動の特長

✓「すべての子どもに等しく教育の機会を」と願う市職員の無料塾

自身も塾に通えず苦労した経験を持つ代表は、公務員の職務を通じてひとり親や生活保護世帯の現状に触れ、貧困により子どもたちの未来の選択肢が狭められている問題に社会的課題や改善への使命を感じていたとのこと。「すべての子どもに等しく教育の機会を」と願う代表と職員有志が目指した学習室は、職務外の地域貢献を推奨する市の「地域貢献応援制度」の創設を機に2017年に実現。休日返上で取り組んでいる事業です。

✓優秀なボランティア講師陣+細やかなサポート

大学生、元塾講師、教師、大学教授らが講師で参加。受講生ごとにカルテを作成し、学習室前後の会議で習熟度や注意点を共有しながら成長をサポートしています。講師は、初めて指導を受ける生徒には、いろいろな質問をして多角的に情報を収集し、カルテに記入。生徒の環境や嗜好、性格、ペースに寄り添った対応を図っています。生徒が自ら問題を解く楽しさを発見し、目標を見つけ、努力する自然な流れへと導いています。

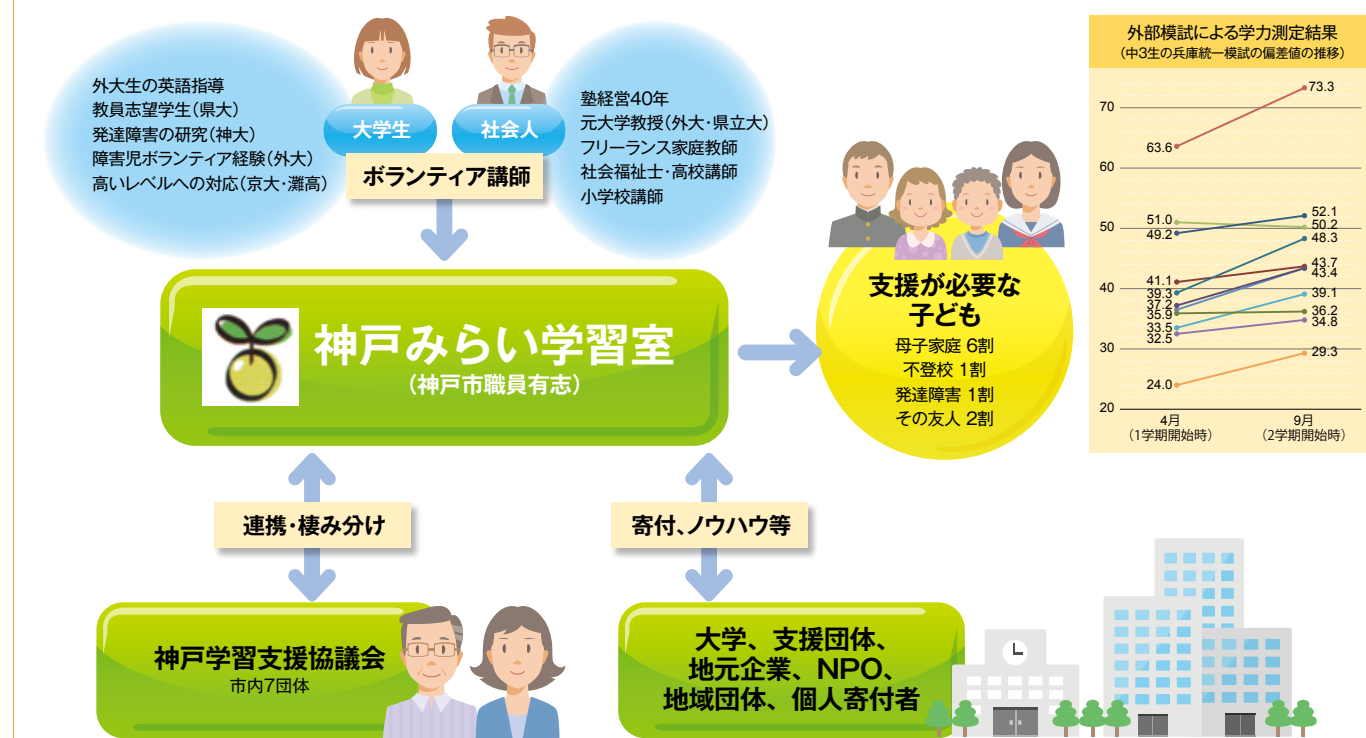
✓教育の質の向上と量的拡大を目指して

成果を見える化し、成功体験を励みにしてほしいと考え、一つの指標として外部模試を導入。1人平均4.5ポイントとほぼ全員の偏差値アップが確認されています。今後は新設校の設置も検討しており、発達障害児への支援プログラムに関して東大先端研※との連携も協議中です。また、市内7団体による学習支援連絡協議会では協議会や講演会を実施。企業や行政も巻き込んで教育の質の向上・量的拡大を目指しています。

※東大先端研: 東京大学先端科学技術研究センター

活動の広がり

活動の財源は、個人・企業の寄付などで成り立っています。講師は、交通費をわずかに支払う程度で基本的にボランティアですが、優秀な人材が数多く集まっています。学習支援協議会の7団体とは、情報を共有し連携しながらすみ分けを図り、神戸市全体での教育の質の向上・量的拡大を目指しています。



連絡先 E-mail: kobeshishokuiyushu@gmail.com HP: https://www.kobemirai.com/
代表者: 佐々木 宏昌 (神戸市役所) 担当者: 小林 正典 (神戸市役所)



本山校での学習風景 (本山校受講生10名、講師5名。学園都市校受講生数32名、講師25名。2020年3月現在)



生徒を送り出す講師の晴れやかな笑顔が印象的な卒業式の様子。卒業式・納涼会・新年会などイベントを地域と連動して開催。



2018年 神戸学習支援連絡協議会 設立シンポジウムでの1枚。翌年は、湯浅誠氏を招いて講演会を開催しました。



ぶろじえくと えん【鳥取県】

命の授業「赤ちゃんふれあい会」

ペア受賞選考理由

2団体とも生徒が赤ちゃんに直に触れ合うことで、命の大切さや生きていることへの感謝などのこころが育まれている。またその生徒が親に

活動の概要と目的

児童・生徒と乳幼児親子がペアを組み、個々にふれあうスタイル

2014年より岩美町の小中学校において、小学5年生、中学2年生を対象に、乳幼児親子とのふれあい体験の授業を行っています。

中学2年生は6月と10月の年2回、家庭科の単元として実施。生徒と乳幼児親子が1対1でペアを組み、個別に密接なふれあいをする点が特徴です。引っ込み思案の生徒やコミュニケーションが苦手な生徒もみんな等しく、まっすぐに赤ちゃんに向き合い、「命」を肌で感じる体験をします。

首の据わっていない月齢1、2ヵ月の赤ちゃんの参加があれば、クラス全員に抱っこさせます。赤ちゃんを大事そうに抱っこする生徒たちは一様にいい表情をします。

子どもたちの変化・成長

ふれあいを通して自分が赤ちゃんだった頃に思いをはせ、自己肯定感を育んでいます。また、小中学生の間に複数回ふれあいの機会を持つことで、赤ちゃんへの接し方に成長が見え、コミュニケーション能力の醸成も感じられます。

活動の特長

✓年間出生数100人足らずの町で1対1のふれあいを実現

岩美町だけでは赤ちゃんが足りないため、周辺自治体に住む親子にも声をかけて参加者を募ります。ミルク作り、オムツ替え、爪切りなど、ふれあいの中身は赤ちゃんの保護者にお任せ。離乳食や母子手帳を持ってきて話をしてくれる保護者もいます。個別のふれあいが生徒と乳幼児親子の三人の間に特別な親近感を生み、街中で会えば声をかけあう関係となります。

参加者の声

赤ちゃんが家族にどれだけ大切にされているのか、改めて知りました。私もあんな風に育ててもらったのかなと考え、すごくうれしくなります。
(中2女子)

中学生になって、小学5年生の時とは違う見方や接し方ができた。お母さんの大変さがわかりました。僕を育ててくれた父、母、家族に感謝します。
(中2男子)

中学生と話をすることは普段ないので貴重な経験でした。話にくいのかなと思っていましたが、いろいろな話ができて私もすごく楽しかったです。
(保護者)

多感な時期だと思いますが、照れたりせず一生懸命に子どもと関わってくれる姿が印象的でした。自分の子どもがどんな中学生になるのか楽しみです。
(保護者)



緊張しながら赤ちゃんを抱っこ。自分が赤ちゃんだった頃を想像し、自己肯定感を育むひと時です。優しいまなざしは親になるための準備教育となります。



絵本「いないいないばあ」の読み聞かせをする生徒。赤ちゃんの保護者から「自分の子どもの将来像が見えてとてもいい」という声が聞かれます。



赤ちゃんにズボンをはかせる生徒。赤ちゃんの保護者から生徒にメッセージカードが渡され、生徒からは後日ペアの写真とお礼の手紙を送ります。

今後の課題と未来の方向性

中学校は所定のカリキュラムや行事で忙しく、なかなか実施時間が取れないことが課題です。ぶろじえくと えんでは、0歳児から芸術にふれる「アートスタート」や、園児や小学生に読み聞かせをする「おはなし訪問隊」のほか、「子ども食堂」の活動も行っています。これらの活動ネットワークを「赤ちゃんふれあい会」にも生かしながら、地域の子どもたちを心豊かに育てていきたいと思っています。

連絡先

●所在地:〒681-0003 鳥取県岩美郡岩美町浦富2475-81 ●TEL:0857-72-8600
●E-mail:kimi-ko@aqua.plala.or.jp ●HP:https://www.facebook.com/tottori.projecten/
●代表者/担当者:西浦 公子



特定非営利活動法人 チャイルドケアセンター【福岡県】

中学校子育てサロン～異世代間交流～

なった時に、今度は自分の赤ちゃんを連れて行くなど、つながりの好循環も期待できる。

活動の概要と目的

中学生、乳幼児親子、地域住民がふれあう子育てサロン

子育てサロンは、同法人の大谷代表が2005年に大野城市の1中学校でスタート。現在は、大野城市、春日市の6つの中学校に拡大しており、3年生の家庭科の授業として乳幼児親子とのふれあい体験をクラスごとに行っています。

中学生はスタッフに見守られながら子どもと遊んだり、保護者から育児の喜びや大変さを聞いたり、育児体験をして命の大切さを学びます。

1クラスを6班に分け、各班に進行役として子育て中の「ママ先生」、お手伝いとして地域ボランティアの「実行委員」が入り、きめ細かに交流をサポートする点が特徴で、地域の“異世代間交流”の場ともなっています。

子どもたちの変化・成長

乳幼児の姿に自分の幼少期を重ね、自分もたくさんの人に支えられて今日まで成長したことを実感し、親への感謝の気持ちを持つようになります。また、自己肯定感を深める、命の大切さに気づくなどの変化・成長が見られます。

活動の特長

✓多世代が出会い、成長を喜び合う関係が生まれる

子育て中でサロン参加経験がある「ママ先生」が進行役、地域の実行委員が見守り役として各班に入り、ふれあいをサポートするほか、乳幼児の保護者のさまざまな相談にも乗ります。中学生、乳幼児とその保護者、地域住民という普段は接点のない異なる世代がサロンで出会い、校外でも声をかけあうなど、互いの成長を喜び合う関係が生まれています。

参加者の声

私も親に愛情いっぱい育てられたのかなと思って、家に帰って「ありがとう」と伝えたら、喜んでくれてうれしかったです。(中3女子)

子育てサロンで顔見知りになった中学生とスーパーなどで会えば声を掛け合うようになりました。
(乳幼児保護者)

最初は表情の少ない子が笑顔になるなど、中学生の顔が豊かになっていくのを間近に見ることができてうれしかったです。(実行委員)

虐待や少子化などのネガティブな情報が多い中、中学生に「本当の子育てはこうだよ」と伝えたくて、ママ先生になりました。(ママ先生)

今後の課題と未来の方向性

わが子と向き合う時間がほとんどであるママたちが、外(社会)に出てみる一つのきっかけとして子育てサロンに参加し、「命を育む」という大きな仕事に取り組んでいることを再確認して、自己肯定感を高めるきっかけとなることを目指します。また、「ママ先生」が地域のママたちのリーダー的存在となり、中学校子育てサロンを開催したい学校等の窓口になるよう育成していくことを考えています。

連絡先

●所在地:〒816-0941 福岡県大野城市白木原1-14-22-102 ●TEL:092-502-8822
●E-mail:room@npo-ccc.net ●HP:http://npo-ccc.net/
●代表者:大谷 清美(代表理事) ●担当者:堺 令奈(中学校子育てサロン担当)



オムツ替えをする生徒。育児の大変さや喜びを知る。同時に、自分の育ちを振り返る場でもあります。実施後、親への感謝の言葉が多く聞かれます。



「ママ先生」が進行役、地域の実行委員が見守り役として各班に入り、生徒をサポートするとともに、乳幼児の保護者の育児相談にも乗ります。



実行委員が見守る中、赤ちゃんを抱っこ。受験を控えた中学3年生。思春期特有の張りつめた気持ちを柔らかくほぐす、心温まる時間です。

歴代全国大賞受賞団体 2008年度～2018年度

●詳しい活動内容はホームページで紹介しています。



2008年度 公益社団法人 群馬県助産師会 (群馬県)
〒373-0018 群馬県太田市丸山町250-7/TEL.0276-37-5198

テーマ **子どもの自己肯定感を育む「いのちの講座」**



2009年度 山形県立置賜農業高等学校演劇部 (山形県)
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松3723/TEL.0238-42-2101

テーマ **農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル**



2010年度 特定非営利活動法人 オバパト隊 (熊本県)
〒862-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-39-15/TEL.096-381-2447

テーマ **高齢女性パトロール隊による、安心安全な子育て環境づくり**



2011年度 石榑の里コミュニティ (三重県)
〒511-0266 三重県いなべ市大安町石榑南611いなべ市立石榑小学校内/TEL.0594-78-0002

テーマ **地域全体で子どもを守り育てるための学校と地域による組織づくりと協働活動**



2012年度 東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊 (兵庫県)
〒664-0021 兵庫県伊丹市高台2-54伊丹市立東中学校内/TEL.072-782-3058

テーマ **地域・学校・家庭と生徒たちによる循環型の地域活性活動**



2013年度 熊本市立出水南小学校 (熊本県)
〒862-0941 熊本県熊本市中央区出水4-1-1/TEL.096-363-5671

テーマ **小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動**



2014年度 仙台市立南吉成中学校 (宮城県)
〒989-3204 宮城県仙台市青葉区南吉成5-18-2/TEL.022-277-4377

テーマ **大震災から学び、前に進む力を培う、復興支援活動と防災教育**



2015年度 鹿角市立八幡平中学校 (秋田県)
〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字諸田4-1/TEL.0186-32-2226

テーマ **郷土愛を育み、人間関係力を培う八幡平ボランティアガイド**



2016年度 和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー部 (和歌山県)
〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670/TEL.0739-47-1004

テーマ **地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して**



2017年度 長野市立城東小学校 (長野県)
〒380-0803 長野県長野市三輪6丁目14番30号

テーマ **共に学ぶ長野ろう学校との41年目の交流活動
～共生社会の形成に向けて6年間の継続交流～**



2018年度 特定非営利活動法人 パノラマ (神奈川県)
〒227-0061 神奈川県横浜市青葉区桜台25-1 桜台ビレジ コリドールR1/TEL:045-479-5996

テーマ **高校内居場所カフェ
～先生でも親でもない大人がいる、文化的シャワー提供の場～**

こころを育む総合フォーラム 活動の経緯

- 2005年** 「こころを育む総合フォーラム」発足
学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
- 2007年** 議論をまとめた「提言書」をプレス発表
発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
- 2008年** 「全国運動」スタート
全国キャラバン、子どもたちの“こころを育む”活動の募集・表彰を開始
- 2011年** 東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)実施
「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を実施(～2013年)
- 2013年** 「有識者対談」WEB連載(東洋経済オンラインとの共同企画)
山折座長を中心に有識者メンバーと「日本人としての教養～次世代に継承したいこと」をテーマに対談(～2015年)
- 2015年** フォーラム活動10年
東京にてフォーラム活動10年特別シンポジウムを開催
- 2017年** 全国運動10年
10周年記念表彰式
- 2019年** 「第二期 こころを育む総合フォーラム」をスタート
鷺田座長を中心にこころを育む総合フォーラムメンバー11名でスタート